

国際企業関係法学科 / Department of International Law and Business

グローバルな視点を通して法と経済を学び
地球規模での課題解決能力を身につける。

法と経済の知識を併せ持ち、地球規模で活躍できる、国際社会のリーダーを育成。
グローバル社会における企業活動で生じる法律問題を軸として
法律と経済の両面から、企業が果たす役割と価値について理解を深めていきます。

■ 学びの特色

少人数教育で丁寧な学びを実現
一人ひとりの個性を将来につなげる

法律と経済という二つの領域の専門的かつ実践的な知識を培うため、学科では1年次からはじまるゼミナール形式の「法学基礎演習」をはじめとして、少人数体制による丁寧な教育を実現。幅広いキャリアの可能性の中から、一人ひとりの関心に合った進路を描くことができます。

法と経済に加え、外国語の修得にも注力
世界を見据えた未来の人材へ

グローバル化の進む社会で活躍するには、専門知識はもちろん、異文化への理解や語学力も欠かせないスキルとなります。1年次から充実した外国語教育を展開し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を中心として、世界で活動するための必須技能を身につけます。

活躍をめざすフィールド

- 金融／メーカー／マスコミ等の幅広い一般企業
- 企業の法務部門
- ロースクールを経て法曹へ（弁護士・検事など）
- 外資系企業やグローバルに事業を手掛ける国際企業
- 公務員
- NPO／NGOをはじめとする各種国際機関など



PICK UP

英語で専門分野を学ぶ授業を展開
留学生との交流を通して視野を広げる

語学力だけでなく、国際感覚や異文化理解を磨くために、法学部では国際企業関係法学科を中心として、法と社会の関係について、国際比較の視野で学ぶ専門総合講座「日本法入門／比較憲法」など、留学生とともに学ぶ機会や英語で専門科目を学ぶ機会を豊富に用意しています。

「戦争はなくならないかもしれないが

戦争の悲惨さはなくせるかもしれない」

STUDENT'S VOICE

戦争や内戦など紛争解決の知見を深めるために、国際法や国際政治学を学ぶことができる国際企業関係法学科へ進みました。民族紛争と平和構築の関係について学んでいます。4年間を通して成長を実感するのは、「法の外から法を眺めることで、法の役割を改めて考えさせる学びを得られた」ことです。大きな機会は「国際インターシッピング」と、やる気応援奨学金制度を利用して臨んだイギリスへの長期留学でした。卒業後は、東京大学大学院に進学し、学びを深め、いずれは国連職員の立場からそれらの問題の解決に尽力したいと考えています。

4年 山本 悠雅

札幌第一高等学校（北海道）出身

進学先 東京大学大学院



学びの特色

法と経済を学び、実践的な学びを重視するヨーロッパの大学のカリキュラムに最も近いカリキュラムを設置。

国の枠組みを超えて動く経済についての知見と法律学の専門的知見を修得でき、留学を希望する学生や、グローバルな視点で学びたい学生のニーズにも応えます。

[修得できる3つの力]



1年次	2年次	3・4年次
現代社会と法学・社会科学の接点に触れる科目 <ul style="list-style-type: none"> ■「民法総則・物権総論」 具体的な事案により民法総則と物権総論を修得する ■「ミクロ経済学」 ミクロ経済学の体系的な知識を修得する ■「比較法文化論」 異文化間コミュニケーション能力を法律学の視点から体得する ■「外交と国際法」 外交と国際法の相互作用や事例を理解する 	法学・社会科学の専門性を深める科目 <ul style="list-style-type: none"> ■「企業法総論」「企業取引法」 商法・会社法など企業に関する法を学修する上での基礎的理解と知識を獲得する ■「マクロ経済学」 マクロ経済学の体系的な知識を修得する ■「国際法総論」 国際法の歴史および現代国際法の主体や、その形成と適用について学ぶ ■「平和学」 秩序と正義の関係や国際事象を身近な問題として捉え、問題の原因と解決策を考察する 	法学・社会科学の応用展開を図る科目 <ul style="list-style-type: none"> ■「経済法(独占禁止法)」「経済法(経済規制法)」 公正かつ自由な競争のための法的規制として、独占禁止法や規制改革について学ぶ ■「開発の国際法」 国際社会の開発問題への取り組みの歴史や南北問題への国際法学のアプローチを学ぶ ■「企業財務論」 リスクを考慮した判断・意思決定・評価について基礎と実践の面から学ぶ ■「財政学」 財政分析の一般的枠組みや租税政策、公共支出、社会保障および財政政策・財政再建について学ぶ
進路別に体系化された科目群 <ul style="list-style-type: none"> 経済社会分析 (企業関係) 国際社会分析 (国際関係) 		卒業後の進路 <ul style="list-style-type: none"> 民間企業 外資系企業 公務員 国際公務員 法曹 (法科大学院)

継続した能動的学修・外国語学習科目

- 「海外スタディツアー」
- 「短期海外プログラム」 現実の社会秩序や課題解決と法の関係について学び、長期休暇中に短期の海外研修を行う。

グローバル社会と法・演習 少人数のゼミで法学部における学修の基本と技法を学ぶ	法学基礎演習A 少人数のゼミで法学部における学修の基本と技法を学ぶ	法学基礎演習B 少人数のゼミで各種法領域の基礎を学ぶ	専門演習 少人数で専門学修を行う
英語 Reading Inquiry-Based Interactive Learning Project-Based Learning より高度な英語能力と英語で学ぶ能力を養う	選択外国語 ドイツ語 フランス語 中国語 より深く学びたい人のための「インテンシブ・コース」あり	英語 選択外国語 上級英語 上級ドイツ語 上級フランス語 上級中国語	

地域から全国を巻き込んでいくような報道を粘り強く探求し続ける記者になりたいです

本学の卒業生である瀬谷ルミ子さんの著書『職業は武装解除』に出会ったのは高校生の頃、出生地によって「有する選択肢」が異なることに疑問を抱いた私は、人権および選択肢を奪う紛争を解決する手立てを学ぶため、国際企業関係法学科へ進学しました。ジャーナリズムゼミでは企画から取材、撮影、映像編集まで行いました。加えてFLPの国際協力ゼミ、インターンシップ体験を通して地方の多文化共生に関わっていきなりたいという思いが新たに生まれました。卒業後は地方のテレビ局へ入社します。地域から全国を巻き込んでいくような報道を探求する記者として、あきらめず、粘り強く挑戦を続けていきたいです。

4年 久保田 優果 | 中央大学杉並高等学校(東京都)出身

内定先 株式会社テレビ熊本



周囲の国々との関わりを大切にしながら日本の平和・独立の維持に貢献したい

かねてから外交官を志していた私は、1年次から国際法を履修できること、そして卒業生の主な進路に外務省と記されていたことに強い魅力を感じ国際企業関係法学科へ進みました。これまで国際法について学びを深めてきました。日々の学びを通じて養われる論理的思考力により、問題を解決する力、状況を分析する力、他者の気持ちを考える力がついたと感じています。これは法曹や公務員に限らず、どの職種においても求められます。国際秩序が動揺する今、外務省に入省後は、安全保障、経済、広報文化など多様なツールや周囲の国々との関わりを大切に、日本の平和・独立の維持に貢献したいと考えています。

4年 甲斐 詢也 | 県立浦和高等学校(埼玉県)出身

内定先 外務省

